



**朗報！
年内に修復工事完了予定!!**

安芸の宮島「厳島神社の大鳥居」 …台風に負けるな!…

慶應義塾大学 広島通信三田会報

みやじま

第63号

2022年9月

慶應義塾大学 広島通信三田会

目次

・ 目次	P.1
[特集:私の近況、今夏過ごしたこと、今思っていること]	
・ 被爆体験と核をめぐる世界情勢について	迫田 勲 P.2-6
・ 万歩運動 30 年の記録	大門 清 P.7-8
・ コロナが教えてくれたこと、学んだこと ～ 人生は戦いなのか(パートⅢ) ～	河村 保 P.9-10
・ コロナ禍&熱中症警戒アラート	瀬戸田 誠 P.11-12
・ 今夏の旅	益田 由起子 P.13-14
[新塾員からの投稿]	
・ 慶應義塾大学通信教育課程の学習環境の変化について	加藤 美奈 P.15-16

・ 会議等オンライン活用について アンケート集計(8月実施)	P.17-18

・ 塾情報・編集後記	裏表紙

3年近く前、中国で始まったといわれる新型コロナウイルスは瞬く間に世界に広がり政治、経済、暮らし、スポーツ、社会等に大きな変化をもたらした。

地球温暖化は記録を塗り替える猛暑・寒波・豪雨等を、ロシアのウクライナ侵攻は世界を巻き込み終わりの見えない戦争に、米中の対立が激化、北朝鮮の動き、台湾の有事？ 安倍元首相の銃撃死等々・・・ 予測できない現象、事態が次々と起こっている。

こうした将来の予測が困難な状態を VUCA=V (Volatility 変動制)、U (Uncertainty 不確実性)、C (Complexity 複雑性)、A (Ambiguity 曖昧性) と呼ぶのだそうだ。結果には必ず原因があるが幾重のも複雑な原因が絡み、結果として予測できないことが突然起こる。まさに一寸先は闇である。

世界は、日本は、そして我々の安全や暮らしはどうなるのだろうか。我々にできることは今生きていること、いや、生かされていることに感謝し縁ある人と仲良く生きる、ということだろう。

[特集:私の近況、今夏過ごしたこと、今思っていること]

被爆体験と核をめぐる世界情勢について

迫田 勲（昭和 43（1968）年法学部卒）

今年（2022 年）2 月 24 日、ロシアのウクライナ侵攻が始まって半年経過、独裁社会主義国家と民主主義国家・その連合体との闘いに発展、長引く戦争になった。

大国ロシアを相手にウクライナは NATO やアメリカなど自由主義国の支援を受け対抗している。ロシアのプーチン大統領は核兵器使用をちらつかせ、核の脅威が再燃するようになった。一方東南アジアでは台湾をめぐる中国とアメリカの対立が激化、核開発やミサイル実験を繰り返す北朝鮮など有事の際、日本はこれに巻き込まれることは必至と、ある有力政治家は発言、その懸念が広まっている。日本は憲法を守り、77 年平和が続き、国民には「平和は当たり前」という感覚が定着しているように見える。「平和慣れ」・「平和ボケ」になっていないか？ ウクライナは、決して対岸の火事ではない。

こうした世界情勢に核の脅威が高まる中、今春ニューヨークの国連本部で開かれた「核拡散防止条（NPT）の再検討会議」は、ロシアの反対で決裂。核軍縮や不拡散、核兵器廃絶が遠のく事態となった。世界の大国は自己主義、ナショナリズムに走り、もっともらしい理屈をつけ、本気で世界の安定と平和を考えているとは思えない。大国の品格が問われる。これでは大国の責任は果たせず、世界から尊敬されない。一体世界はどうなるのだろうか。

日本は唯一の被爆国として、「核の脅威」・「非人道」を一番よく知っている。それゆえ、核兵器廃絶をリードしていく責任がある。来年 5 月、広島市で世界の首脳が集まる G7 会議が行われる。原爆資料館で原爆の実相に触れ、「戦争のない世界」・「核廃絶」を訴える良い機会だ。岸田首相には是非、それらに道筋をつけるよう、しっかりとリーダーシップを発揮していただきたい。

しかし、現実は今この緊迫する世界情勢の中で、日本のみで国家と国民の生命、財産を守ることは不可能に近い。事実上、同盟国アメリカの保護（所謂核の傘）に頼らざるを得ない、というジレンマがある。

広島に生まれ、歳の巡り合わせで原爆を体験した私は、その実相と平和の大切さを、後世に、世界に、伝えることが「使命」と思い、3 年前から、広島市長から被爆体験伝承者として認定を受け、学校の平和学習や修学旅行生等に、広島の原子爆弾の威力と非人道性、その実相、戦争や平和について講話をしている。

【1】 私の被爆体験

(1) 8月6日のこと

私は7歳（国民学校1年）の時、広島市の爆心地から北に直線で約19kmの当時住んでいた山の中で原子爆弾を体験した。

その日（8月6日）の朝、集落の子供たち7～8人と夏に繁茂するムショウ（アオカラムシ）という草を採っていた。その強い繊維を利用し、兵隊さんの服や帽子などの原料にするため、学校の命令であった。



ムショウ(アオカラムシ)



軍服



軍帽

その時、突然南（広島市の方向）の山の上が「ピカーッ」と光り、暫くしてドーンという爆音が聞こえた（広島の人はこちらを「ピカドン」と呼んだ）。その後、山の木が台風のように大きく揺れ、白くなり、黒雲で太陽が隠れ、真っ暗になった。昼前、ねっとりした黒い雨が降り、汗と雨で、頭や顔がぐしゃぐしゃになり、白いシャツが汚れた。当時、それが放射線を含んだ危険な雨とは知らず、そのまま、雨に打たれたまま帰宅し、着替えた。そして、焼かれた紙や衣類が飛来し降ってきた。外で遊んでいた私がそれを拾おうとした時、母が飛んできて、「それに触ってはいけん！」と私を抱きしめた。

大人たちは「祇園（広島市北隣の三菱工場）に爆弾が落ちた」、「落下傘で敵が降り攻めてくる」と竹ヤリを持ち出したり、おじさんの麦わら帽子が飛んであわてたり、「日輪さん（太陽）が病気になった」、「大変なことが起こった」、など何が何だか分からず、右往左往していた。

私は遠方にいたため、原爆による火傷やケガはしなかったが、黒い雨に混じった放射線を浴びた。因果関係は分からないが、20数年来甲状腺を患い、主治医の管理下で治療を受けている。今年春、**被爆者**と認定され原爆手帳をもらった。

(2) 隣のおねえさんのこと

我が家の隣の20歳くらいのおねえさんが、市内で被爆し、顔や首・背中に大火傷して自宅に帰ってきた。蚊帳の中で彼女の父親が（母親はむごいと言って治療しなかった）、へちまの汁を火傷跡に塗る時、背中の皮膚がブラウスと一緒に剥がれ、その傷からウジ虫が出てきて、それが非常に臭かったのをよく覚えている。彼女は首や背中にケロイドが残り、いつもタオルを首に巻いていた。その後結婚され、90歳くらいまで長生されたそうだ。

(3) 多くの被爆者が村の国民学校に収容されてきたこと

6日の午後から当地の国民学校に、被災者150人が、軍のトラックや大八車で、次々と運ばれ、村の婦人会（私の母も）が交代で食事や洗濯等の世話をした。

ひと月の間に100人が亡くなった。学校の裏山に穴を掘り、多くの遺体を重ね、毎日のように火葬したそうだ。私が中学校に通う昭和27年頃、その裏山から骨が出てきたのを覚えている。その後そこに慰霊碑が建立され、小中学校閉校後は、地区のお寺が毎年8月原爆供養の法要を行っている。

(4) 同級生のこと

昭和20年1学期、市内の幟町国民学校から私の通う国民学校に、Y君が転校してきた。戦争が激しくなり、商売をしていた両親の元を離れ、叔母と一緒に疎開してきたのである。以来中高と一緒にであった。原爆投下後、彼はその叔母と一緒に市内に入り、爆心地から1km離れた店で、白骨化していた両親を発見したそうだ。原爆孤児になったのである。

彼は60歳頃から白血病で体調を崩し、仕事を辞め、入退院を繰り返す、最後は施設で誰にも看取られることなく旅立った。78歳であった。亡くなる3月前、その施設に見舞いに行ったとき、彼の方から「白骨化した両親のこと」、「長い間孤独に耐え、原爆症で死に怯え、不安な日を送り苦しんでいたこと」、「原爆のことは誰にも言いたくない、思い出すのも辛い」、と小さな声でつぶやいた。

7歳で知り合ってから70年、初めて胸の内を打ち明けてくれたのである。死を予感していたのかも知れない。原爆が如何に人の人生を破壊し、幸せを奪ったか。彼のことを思うと、今でも胸が痛くなる。

【2】 原子爆弾の恐ろしさ、非人道性

爆風・熱波・放射線・放射性降下物が無数の人々の命を奪い、人体に短期的・長期的に計り知れない影響を及ぼした。その威力と非人道性が広島で証明された。

(1) 一瞬で35万人が住む広島の街を焼け野原に、無差別に多くの命を奪った（威力、非人道性）

建物の90%を焼き尽くし崩壊、その年の年末までに14万人が死亡。

(2) 非常に高い熱、熱線（威力）

爆心地周辺の温度、摂氏3000℃～4000℃に、まるで小型の太陽が落ちたよう。

鉄が溶ける温度が1500℃、如何に高い熱か。この高温で人間ばかりでなく動物など多くの命が一瞬にして奪われた。

(3) 強烈な爆風（威力）

数10万気圧で空気が膨張、爆心地から100mの地点で秒速280mに。多くの人がこの強烈な爆風で吹き飛ばされ死亡。広島駅近くで被爆した私の知人は、6km吹き飛ばされ、気がついたら散髪屋の中にいた。19km離れたところでも、台風のように山の木が大きく揺れ、おじさんが冠っていた麦わら帽子が飛んだ。

因みに、風速40m以上ではトラックは横転、街路樹はなぎ倒され、屋根は飛ぶそうだ。それが280m、想像すらできない。

(4) 大量の放射線（威力）（非人道性）

投下時の初期放射線で即死。残留放射線、黒い雨（広範囲に拡大）で77年経った今でも、癌などを発症、多くの被爆者が苦しむ。

(5) 生存者の心の傷跡、罪の意識、死への恐怖（非人道性）

「助けて下さい」、「水を下さい」。材木の下敷きになり、猛火で焼け死ぬ人に、何もできずその場を立ち去り、見過すごさざるを得ず、助けてあげられなかったこと等、罪の意識、生存者の心の傷跡、癌で死の恐怖が 77 年経た今でも続く。

【3】 私が継承している被爆者の証言

17 歳の時、爆心地から 2.3km の、国鉄広島鉄道局第一機関区（現在のマツダスタジアム付近）で被爆した国鉄マン T 氏の証言から。

- (1) 勤務を終え、事務所の玄関前の広場に出た時、西の方向（爆心地）がピカーッと光った。その物凄い光に、思わず両手で顔を塞いだ。次の瞬間、吹き飛ばされた。気が付いたら 6 m 先の散髪屋の中。上から家の壁やガラスなどが、ドカドカ落ちてくる。必死で頭を抱えていた。暫くすると落ち着き、それらをかき分け、外に出た。何が何だか分からず、ああ助かったんだ、と我に返った。幸い、制服制帽をしていたので、両手の甲の（強烈な熱線で）大火傷だけで済んだ。
- (2) 広島駅（爆心地から 1.9km）から列車に乗って逃げようと思っただけで、駅舎の屋根は崩れ、壁は吹き飛ばされ、ホームの堅い鉄骨は大きく曲がり、列車は脱線し、人はいなかった。

駅前に出た時、目のあたりにしたのは西の方（爆心地）から逃げてきた大勢の負傷者。辛うじて焼きただれた下着のみを纏い、皮膚は焼きただれ、剥がれ、髪は焼け、男か女かわからない真っ黒い顔、血を垂らし、「痛い、助けて下さい、水を下さい」と言って駅前に設置してあった防火用水槽に水を飲もうと頭を突っ込む。力尽きてそのまま息絶え亡くなっていく。



ボウフラがいる防火用水槽に水を求めて頭を突っ込み亡くなっていく負傷者（広島市所蔵）

- 中は蚊の幼虫「ぼうふら」がいっぱい泳いでいる。次から次へと負傷者が前の人を押しよせ、頭を突っ込み亡くなっていく。途中で力尽き、倒れ死んでいく。その光景を見たが、どうすることもできなかった。
- (3) 駅前の猿猴川にでたら、焼きただれた材木等や多くの死体が漂流、川は血や粉塵でどす黒く、赤く染まり、その状況はとても言葉に言い表せないこの世の地獄であった。それらは潮に流され、河口に近い瀬戸内海の金輪島や似島に辿りつき、似島では多くの遺体を引き上げ、火葬されたようだ。そこから後日多くの骨が発掘された。
 - (4) T 氏は 17 歳で被爆、その後放射線の影響で次々と病気になった。32 歳（15 年後）の時網膜症に、50 歳前（33 年後）に甲状腺が腫れる病気に、60 歳（43 年後）の時皮膚癌に、そして 90 歳（73 年後）の時癌が全身を覆い、亡くなった。

【4】 何故、人類は戦争を繰り返すのか

新興大国が既存の覇権国を脅かすことで、対立→戦争が起きる。ハーバード大学、トウキディデス教授は、過去 500 年の覇権争いのうち、実に 75%が戦争に至った、と分析。新興国家と覇権国家は互いに望まなくても、衝突→戦争に発展しやすい、との理論「トウキディデスの罠」を発表。

現に近年、中国が経済力や軍事力を背景に「一带一路」構想で関係諸国を巻き込み、日本が統治している尖閣諸島の領有権を主張、東シナ海で軍事演習を行う等、覇権主義活動を活発化している。アメリカのバイデン大統領はこれを強く警戒し、対立が激しさを増している。これにロシアのウクライナ侵攻問題、台湾と中国の対立、北朝鮮の核開発、ミサイル発射実験等が絡み、日本の有力政治家は、これらの有事の際は、日本は戦争に巻き込まれると発言。にわかに防衛力強化に向けて準備が進まされるようになった。

人類は戦争の歴史、ある歴史研究者によると、「過去 4000 年間で大小 8000 回の戦争を経験した」（森重一成氏著『見えない今見える明日』）とある。

【5】 共命鳥の教え

仏教に「仏説阿弥陀経」という経典がある。この中に「共命鳥」という言葉がある。



1つの胴体に2つの頭があるこの鳥（←）は仲が悪い、何時もけんかばかり。

ある時、一方が相手に毒を飲ます。と、相手はぐったりしてやがて死ぬ。しかし、胴体が1つだから自分も死ぬ、という話。

「相手を苦しめれば自分も苦しむ」ことになる。「相手を殺せば自分も殺される」というお釈迦様の教え。

「共命鳥」インターネットより

現代風に言えば、核兵器使用は相手国だけでなく、自国も、更に地球全体に及ぶ、人類の破滅につながる、つまり戦争に勝者はいない、という例え話である。

【6】 核兵器禁止条約

2017年、核兵器を「非人道的で違法」とする条約が、50各国が批准して発効した。核保有国（米・ロ・中・英・仏）は、「核は自国の防衛」に、「核の抑止力が世界の平和に必要である」と主張。これに対し非核保有国（日本・メキシコ・オーストラリア等120か国）は、「核は非人道的で違法」、「廃絶すべき」と主張。日本は唯一の被爆国で、核廃絶を主張。悲願であるが、現実には日本はアメリカの傘に依存している、というジレンマがある。そのため、双方の橋渡し役をするのが日本の立場。来年広島でG7が開かれ、世界の首脳が広島を訪れる。広島出身の岸田首相は核廃絶時にリーダーシップを発揮する良い機会だ。

万歩運動 30 年の記録

大門 清（昭和 44（1969）年法学部卒）

1. 「万歩運動」のはじめ

今夏の 8 月 30 日（令和 4（2022）年）は、私の人生で忘れられない大切な記念となった。万歩運動と名付けて「ウォーキング」を開始したのが 30 年前の平成 4（1992）年 8 月 30 日だったからである。当時私は 53 歳で現役サラリーマン、やや太り気味で多少気にしながらも「立派な中年太り」の一員であった。

そんな折、職場で同僚と日常会話をしたり、知り合いの看護師さんと話をする中で、「ウォーキングが健康保持に大変有用であること、1 日 8000 歩が一応の目安である」と聞かされた。私は何か新鮮な響き感じ、すぐさま「ウォーキング」に挑戦しようと思った。早速、薬局で歩数計を買い求め、小型ノートに記録をし始めた。

実行してみると 1 日で 4000～5000 歩程度で、案外歩いていないことが判明した。そこで 1 日の歩行目標を設定し、毎日着実に達成する方法を考え付き、実行に移したのである。

当面 9 月は 5000 歩、10 月は 6000 歩、11 月は 7000 歩、という具合に、実績を見ながら少しずつレベルを上げていくのだ。私自身、歩くことはあまり好きではなく、むしろ苦手科目に近い存在だった。

1 日毎に、目標数を少しでもオーバーすると、不思議なことに元気がでてくるのではないか。坂道を上る時もしんどくなくなっていた。自分自身の気持ちに化学変化が起こり、なんだか楽しくなってきたのである。1 日の途中で、「今何歩か？」と歩数をチェックする習慣が、身についてきた。これで目標の達成意欲が徐々に高まっていくのを感じた。やがて半年後、平成 5（1993）年 2 月には「1 日 10000 歩運動」として取り組み、現在まで継続している。

2. 万歩運動をめぐる思い、工夫、アイデア等

- (1) 10000 歩は大きな数字だが、100 歩×100 回となる。100 歩ならすぐ歩ける。
- (2) 10 分でおおよそ 1000 歩、30 分で 3000 歩くらい、60 分なら 6000 歩程度歩ける。コマ切れ時間を有効活用すれば 10000 歩は近くなる。
- (3) 業務、体調の都合で歩けない日は翌日挽回する、もしくは 1 週間単位でカバーする。
- (4) 記憶に頼らず記録に頼ろう。
思い付き、感じたこと、考えたことは、携行の小型ノートに書こう。
- (5) 外出先のトレイマップを頭に入れる。
- (6) 悪天候時(雨や雪、風など)の歩行場所には、シャレオ（広島バスセンター界限）・アーケード商店街・地下街などが最適である。
- (7) 毎朝体重測定を実施している。

3. 万歩運動 30 年のあらまし

万歩運動 30 年、中には随分色々なことがあった。思いつくままに列挙する。

- (1) 定年退職 (2000 年 7 月)
- (2) 初めての海外旅行 (2001 年 9 月) ヨーロッパ 5 か国
- (3) ギリシャ、エジプト旅行 (2003 年 10 月)
- (4) 左足親指の骨折とリハビリ (2005 年 5 月)
- (5) 慶応義塾大学入学式、卒業 50 年塾員招待会出席 (2019 年 4 月)
- (6) コロナ禍 (世界大流行) 2020 年 1 月から現在に至る。

4. 万歩運動の効用

- (1) 周囲の山や緑を眺め、花木を愛で、四季の移り変わりを感ずるのはいいものだ。
- (2) 全身で日の光・風・空気に触れ、たまに知人や友人と出会い、挨拶・会話もできる。
- (3) 歩く姿勢がよくなり気分が爽快である。
- (4) 風邪を引きにくくなる。
- (5) 体重がなだらかな減少傾向へ。
約 20 年掛かって 8 kg 減少し、18 歳時の体重 57~58kg となる。
- (6) 現在では、万歩運動が 1 日の主役の座を占めるようになった。

5. 今後に向けて

- (1) 明日からも歩数計を親友として、万歩運動に励んでいきたい。
- (2) 毎日、一步ずつを積み重ね、きちんと記録・保存をして行こうと思う。
- (3) 生きて、生かされていることを実感できる「至福の時間」
故に、大切に歩いていこう、と決意している。

以上

[IT ぷち情報]

(by 小林)

~「万歩運動」について~

ググったら、こんなん見つけました！
大門先輩を目標に(建前)、
ユーラのアプリ狙い！(本音)。
ポイント集めて、飲み物ゲット！



理想の歩数は 1 日何歩？健康維持や脂肪燃焼に必要な歩数についても解説
<https://life.saisoncard.co.jp/health/longevity/post/c151/>

コロナが教えてくれたこと、学んだこと ～人生は戦いなのか(パートⅢ)～

河村 保 (昭和 52 (1977) 年経済学部卒)

「人生は戦いなのか」が、俄然本番に入ってしまった。現実世界で、ロシアがウクライナへ侵攻した。厳然たる事実である。演習ではない。スポーツのような競争でもない。殺し合いなのだ。

情報は虚偽も含めて錯綜する。うっかりすると、聞かされているニュースも、事実ではないかも知れない。ウクライナの大統領は、欧米は勿論日本の国会でも饒舌に演説し、欧米・日本や世界の多くの国で、『正義の英雄』となった。しかし、私は疑念が湧く。国民へ「命を捨てても戦え、国を守れ！」と命じるのは、民主主義とは違う。

戦争の一方の当事者として、ロシアが本気で侵攻してくることは分かったはずである(米国バイデン大統領も、侵攻の一週間前には「侵攻する確信が有る」と言っていた)。侵攻を止めるために、(侵攻が始まった後でも)大きな譲歩をすべきではなかったか？ 実際にはクリミア半島は8年前から、実効支配されているし、東部の2州も先年から内紛状態だったと聞く。降伏に近い譲歩をしてもあまり変わらないのではないか。ここは一旦譲歩し、戦争を止めねばならない。「耐え難きを耐え、忍び難きを忍んで」降伏するのも、勇気である。それからウクライナ国民の力だ。そして東部の2州も、住民が選挙などで分離併合を阻んでいけばよいのだ。

欧米や日本の政府は、戦争装備品や兵器を送り、「戦え！」と言っているようにみえる。でもそれが正しいのか？ 勝っても負けても、犠牲者が増えるばかりではないか。決死の思いでロシア軍に負けない程戦っているようにみえるが、…プーチン・ロシアに勝てるのか…(核兵器使用も有り得るとさえ言っている)。欧米のマスコミは、『民間人を殺害し、住宅・学校・病院など、戦争犯罪になる所ばかり爆撃している、人道上許されない』と報道しているが、それが戦争なのだ。

かつて米国の攻撃でも、民間人を狙って攻撃していた。木造家屋の多い日本の弱みを標的にして、焼夷弾を投下した。原爆も投下した。そして、原爆は戦争の終結を早めるためにやった正しい事だったと言いつけている。2016年5月、米国オバマ大統領は広島を訪れて原爆慰霊碑に献花し、ヒバクシャから感謝された。停戦が実現してからこそ、ウクライナへの支援が始まるのだ。

学生時代の懐かしのフォークソング「花は何処へ行った」 When will they ever learn? いったい、いつになったら、みんなは学ぶのでしょうか。

ロシアのノーベル賞作家ショーロホフの「静かなドン（長編小説）」の中に出てくる『子守歌』からインスピレーションを受けて、アメリカのピート・シーガーが作ったフォークソングである。舞台は南ロシア、ウクライナにいたコサック兵たちの人生を描いている。「戦争は戦場だけでなく、多くの普通の家庭につながっている」と、平和への思いが込められている。それが、今や歴史の運命的な展開になっているのだ。

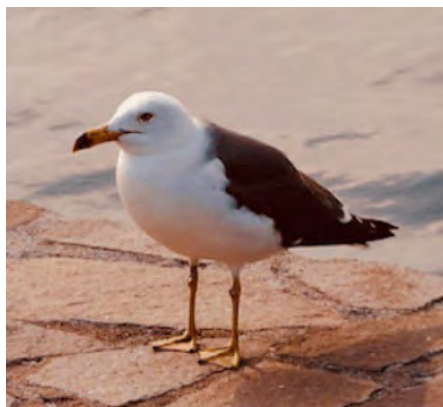
文学の力で、『喜怒哀楽によって人種や国籍などを越え、人間である理解が深まり平和に寄与する』と、私は信じてきたのだが……。

「偉大な『ロシア文学は何処へ行った』のだろうか？」

私事、通信教育仲間に呼びかけて作った同人誌『慶応通信雑志会』が、5年前に40号で廃刊となったのが残念である。

宇宙船『地球号』に乗っている我々は、共に理解し合い、生きてゆくことしかできないだろう。

以上



2022年 夏季・主な出来事

◆ 国内ニュース

【6月】

- ・カズワンを陸揚げ＝知床観光船事故
- ・83歳堀江謙一さん、太平洋横断
- ・侮辱罪厳罰化、改正刑法成立
- ・25都道府県・140選挙区で変更
＝衆院10増10減、区割り審勧
- ・原発事故、国の責任否定＝最高裁初判断
- ・参院選公示
- ・戦後77年、沖縄慰霊の日
- ・電力逼迫で初の注意報＝東電管内
- ・復興拠点の避難指示解除＝福島県大熊町

【7月】

- ・KDDI、全国で通信障害
- ・安倍元首相、銃撃され死亡＝67歳、選挙応援演説中
- ・自民63、改選過半数
＝立民敗北、比例で維新下回る－参院選
- ・鹿児島・桜島で爆発的噴火
- ・五輪組織委元理事強制捜査＝AOKIから4500万円

【8月】

- ・新人議員ら初登院＝臨時国会
- ・77回目広島原爆の日
- ・77回目長崎原爆の日
- ・第2次岸田改造内閣が発足
- ・旧統一教会問題、底なしの様相
- ・終戦記念日
- ・高速道路でバス横転炎上＝名古屋
- ・中村格警察庁長官が辞意表明

◆ 海外ニュース

【6月】

- ・英女王在位70年でパレード
- ・仏独伊首脳がキウウ訪問
＝ウクライナのEU加盟支援
- ・北欧2国加盟に合意＝NATO首脳会議
- ・ロシア産石油に価格上限＝G7首脳声明
- ・香港返還25年

【7月】

- ・英首相が辞意表明
- ・ラジャパクサ大統領国外脱出＝スリランカ経済危機
- ・英で初の気温40度超え

【8月】

- ・米下院議長、台湾訪問＝25年ぶり
- ・ウクライナ侵攻半年
- ・NPT会議、再び決裂

(出典:時事通信フォトアーカイブ)

コロナ禍&熱中症警戒アラート

瀬戸田 誠 (平成元(1989)年経済学部卒)

今夏は猛暑で厳しく、大変な夏となりました！ コロナ禍&熱中症警戒アラート発令と苦難な夏生活を過ごして来ました。最近、コロナ禍は周辺でも陽性者が多く見受けられ、マスク着用状態が続いています。幸いなことに、我々高齢者(笑)は、全国的にも感染者が少ないようです(4回目ワクチン接種のお陰)

さて、今夏の猛暑の中、広島県内の三田会は元気に活動しています！

7月には**広島慶應倶楽部**の特別例会が、広島マツダスタジアムで野球観戦を実施(ラグジュアルルーム貸し切り 50名参加) 涼しい中でプロ野球観戦が出来ました！ 広島東洋カープの松田オーナーもルームへ！！



7月12日 広島慶應倶楽部特別例会 ～マツダスタジアムにてプロ野球観戦～

そして、8月3日は『広島県東部三田会納涼総会』が福山市でありました！



榎原&瀬戸田と東部三田会内海会長



※最後はマスクで『若き血』の大合唱

8月3日 広島県東部三田会納涼総会開催 ～コロナでも休まず連続開催～

広島通信三田会からは、榎原君と瀬戸田が参加しました。最後はコロナキャリアの瀬尾君の指導で『若き血』のマスク着用のままで大合唱。感染者ゼロ更新の三田会でした！

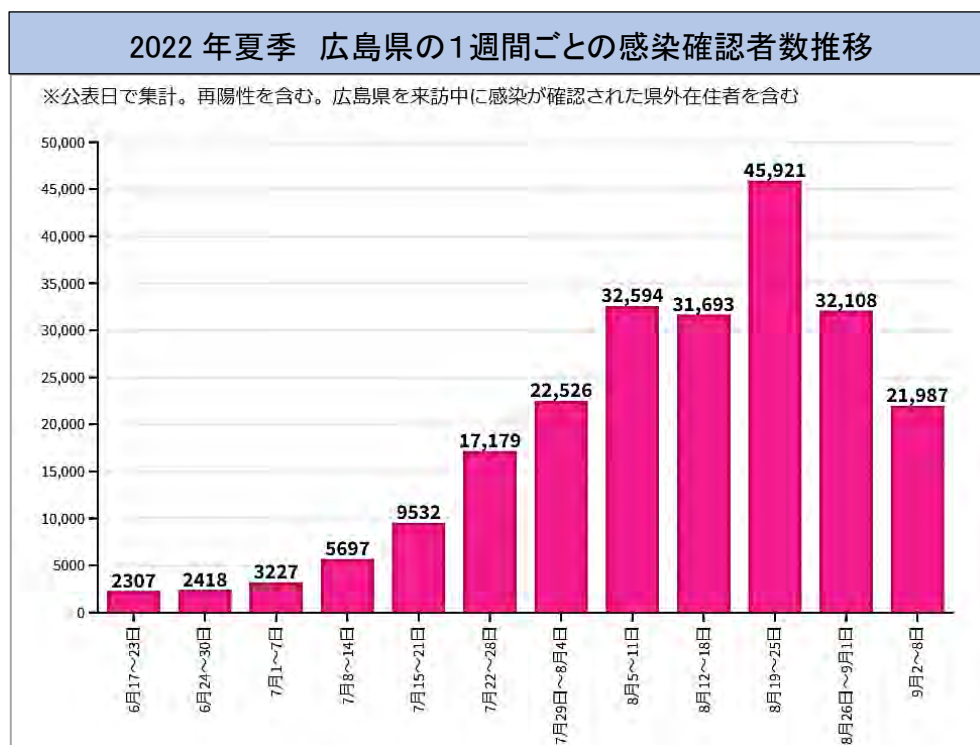
地域活動では、【フレイル予防測定会】を福山市内各地で実施。



※今夏は猛暑&熱中症警戒アラート発令の中、フレイル予防の測定会実施～ボランティアとして参加

猛暑の中、熱心な高齢者の参加に、福山市フレイルサポーターの我々も、元気をもらいました！ 今夏は例年以上の猛暑に加え、3年目のコロナ禍&熱中症警戒アラート発令と厳しい夏ですが、何とか乗り切り、10月の三田・日吉で、元気に再会出来ることを楽しみにしています。頑張りましょう！

以上



出処: 【グラフで見る】広島県の新型コロナウイルス感染者数と医療提供状況
(中国新聞デジタル 2022/9/15(最終更新: 2022/9/16))

今夏の旅

益田 由起子（令和 2（2020）年法学部卒）

今年 8 月、中部地方・信濃地方を旅する機会がありました。その旅を通して感動したこと・思いを巡らせたことなどを、皆様にお伝えできたらと思います。

私は高校卒業まで、瀬戸内海を見下ろす段々のみかん畑が広がる地域で育ちました。大学時代は甲子園の浜に近い西宮というところに下宿していました。その後就職し、結婚後はずっと廿日市という瀬戸内海の沿岸地域に住み続けています。言ってみれば、私にとって、おだやかな瀬戸内海は、誕生以来当たり前のようにそこに存在しているのです。

今夏の旅は、海のない地域を回るということで、日常とは全く異なる風景や空気感を堪能することができました。実は、この地方を旅するのは今回が初めてではありませんが、私の心の中で内陸部の魅力が大きすぎて、今夏も行きは中部地方、帰りは信濃地方を回るというコースを辿ることになりました。実は、私は十数年前、小さな villa を箱根に買い、東京に住む二人の息子と、合流したり避暑に使ったりしています。定年後の移住も視野に入れて、箱根の地を選んだという経緯があります。しかし、ここ数年は母の介護で箱根滞在の回数は減り、夏だけはゆっくり道中の観光を楽しみながら車で箱根へ移動するといった感じです。これまで、白川郷、飛騨高山、伊勢志摩、知多半島、富山湾と、いろんなコースを辿り、それぞれに素晴らしい日本の自然美を堪能しましたが、海のそばで生きてきた私にとっては、無い物ねだりなのか、今は断然山派となっています。

今夏、訪れた土地で感動したことをお伝えしたいと思います。まず**郡上八幡**です。



郡上八幡の水路

この地で有名なのは郡上おどりです。なんと 7 月中旬から 9 月上旬にかけて 30 夜以上にわたって踊るそうです。特に徹夜おどりの 13、14、15、16 日は、クライマックスになるようです。コロナ禍であっても市街地の通りは祭りの雰囲気漂っていました。

郡上八幡は豊かな水風景のある町です。町の至る所に水路や水汲み場があり、誰でも無料で冷たくておいしい水が飲めます。また、市街地を流れる川では鮎釣りに



吉田川の鮎釣り

興じている人をあちこちで見かけました。暮らしと水の関係が町の風情の中に息付いていて、派手さはないけれど凜とした落ち着きのある町に感動を覚えました。

次に、中山道の宿場町であった**妻籠宿**です。

「木曾路はすべて山の中である」の書き出しで始まる「夜明け前」を書いた島崎藤村の生家があった南木曾町にある山深い集落です。今も江戸時代の面影を色濃く残している集落であり、全国で初めて古い町並みの保存を始めた場所だそうです。今も妻籠の人たちは街並みを守るために家や土地を「売らない・貸さない・壊さない」という三原則をつくって、厳しい条件を守りながら生活しているそうです。自然と町と人との共生を見事に成功させている集落でした。

集落入り口の駐車場は非常に珍しい木造りとなっていました。もちろん電柱も今では見かけなくなった木の柱でした。頑なに江戸時代の集落の姿を守り続けている人々の努力と覚悟も相まって、集落全体に上品な気高さが感じられました。



中山道の妻籠宿



妻籠宿の駐車場

最後に、長野県の**安曇野**の風景をお伝えします。

雄大な北アルプスとのどかな田園地帯が広がる安曇野の風景は、どこか懐かしい日本の原風景としてよく語られます。日本一広いわさび農場があることでも知られています。秋から冬にかけては、北アルプスが雪を頂き、もっと見ごたえのある風景を楽しめると思います。美術館も多く点在し、芸術好きな人にとっても楽しめるどころです。

もちろん自然はたっぷりどこまでも広がり、「国営アルプスあずみの公園」の規模は想像をはるかに超えました。2か所あって、とても一日では回り切れない広さでした。駐車場には結構な台数の車が止まっていましたが、公園内はめったに人に会うことがないという広さと静けさでした。木々を通り抜ける風が心地よく、ベンチも独り占めです。抜け感のある広大な田園風景と北アルプスの猛々しい山々のコントラストは、広島では味わうことのできないリラククス感をたっぷり体に注いでくれました。

今夏の旅で強く思いました。「自然と町と人との共生はその土地に豊かな文化を生むのだ」と。



安曇野のせせらぎ



国営アルプスあずみの公園内

慶應義塾大学通信教育課程の学習環境の変化について

加藤 美奈（令和 3（2021）年文学部卒）

昨年 9 月に慶應義塾大学を卒業して、あと 1 ヶ月で 1 年が経とうとしています。今思えば、在学中は常に頭の片隅にレポートを書かなければ、試験勉強をしなければという思いがありました。卒業とともにそれらから解放され、ホッとするとともにどこか寂しいという気持ちも思い浮かんできています。テキストを何度も読み返しながらレポートを作成したり、試験の始まるギリギリまで試験勉強をしていたことを思い出し、あの時・あの瞬間は大変だったけれど、充実した日々だったなあとしみじみと思い返しています。慶應義塾大学に入学してから卒業するまでの 4 年半の間、かけがえのない時間を過ごすことができたと感じています。

2017 年 4 月に三田で行われた入学式に参加し、先生から「慶應義塾大学の通信教育過程は卒業率が低い」というお話を聴き、なんとしてでも卒業しようと決意したことを昨日のように思い出します。私にとって入学式に参加したことは、卒業までに辿りつく上で決意を新たにするという意味で『重要な場面』だったと思います。老若男女、様々な年齢の新入生が集まり、さあこれから勉強するぞという前向きでどこかワクワクさせるような雰囲気が会場に満ちていました。

在学中には、新型コロナウイルスの感染が世界的に広がり、学習環境も大きく変わっていきました。在学中にこのような世界的な出来事を経験した立場から、その変化についてお話しさせていただければと思います。

自宅学習で単位の取得を目指す通信教育課程で、コロナ禍によって大きく学習環境が変化したのは主にスクーリングと科目試験です。毎年全国から塾生の集まる夏期スクーリングはコロナ禍によって面接授業からオンライン授業へ、科目試験は筆記試験からレポート提出へと変化しました。夏期スクーリングについて、私は、最初の 3 年間は日吉と三田で面接授業を受講し、後の 1 年間はオンライン授業を受講しました。2 つの異なる形式のスクーリングを受講して、どちらにもメリットとデメリットがあると思いました。

面接でのスクーリングは、普段一人で学習している塾生にとって、他の塾生と一緒に教室で授業を受けたり、コミュニケーションを取ったりすることのできる貴重な場です。私も授業中のグループディスカッションや、休憩時間に、他の塾生との交流によって学ぶこともたくさんありました。しかし、通信教育課程の入学を考えている人たちの中には、スクーリングを受講するために、少なからず仕事を休まなければならないので、入学を躊躇している方もいるのではないのでしょうか。通信教育過程には仕事をしている塾生も多くいますが、

オンラインスクーリングであれば、期間中の好きな時間に視聴できるので、視聴時間が確保できれば仕事を休むことなく受講することも可能です。

現在、通学の大学ではオンライン授業をやめて面接授業に戻している所もあるようですが、社会人学生が多い通信教育過程では、選択肢の一つとしてオンライン授業があれば、仕事を休めないために入学をためらっていた人たちにも、勉強する機会を与えることができると思います。

また、特に地方在住の塾生は、夏期スクーリングを受講するために、上京してホテル等に宿泊する必要がありますが、それに掛かる旅費や宿泊代などの経済的負担が軽くなるというメリットもあります。

今後どちらの形式も選択肢として残すことができれば、お互いのデメリットを補えるのではないのでしょうか。ただ、どちらか選択できるようになった場合にも、やはり一度は面接スクーリングで、経験豊富な多種多様な人たちと一緒に教室で授業を受けたり、学食で昼食をとったりする機会はあった方がよいと思います。自宅学習では得られない、他者との関わりを通して学べることもたくさんあるからです。

最後に、慶應義塾大学を卒業した今、三田会の皆様との交流を通して様々なことを学んでいきたいと思っております。広島通信三田会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

[ちょっと寄り道]

(by 小林)

加藤さんの記事を読んで、ふと机の上に目をやった。私にとって「学習環境」と言えば、まず机の上の整理整頓を思い出す。でも、今居るのは、息子がいた部屋。彼の机の上には、昔からあまり物が置かれていない。

遊び心でネット検索。「机の上・今昔」ヒットしたのがこちら。⇒

6年前(2016年)の記事ですが、「机の上の35年の時間経過」がツボにはまりました。



過去35年間でデスクの上から消えていったモノたち。そして、アレだけが残った・・・

2016/03/19
#野良丸 (TABI LABO)

ここに紹介する動画は、ハーバード大学イノベーション・ラボの「BestReviews」が制作した、仕事環境の変化を表した映像作品「The Evolution of the desk」。

過去35年間で、私たちの机の上がどう変容し、進化していったかを時系列で見ると、過ぎ去った月日の中で多くのモノが姿を消していることに気づくはずで

「過去 35 年間でデスクの上から消えていったモノたち。そして、アレだけが残った・・・」
<https://tabi-labo.com/251455/the-evolution-of-the-desk>

会議等オンライン活用について アンケート集計(8月実施)

当会は、会員を対象に、「会議等のオンライン活用について」のアンケートを行った。

アンケート実施対象：広島通信三田会員

アンケート実施数：22人 回答者数：14人 回答率：63.6%

1. あなたのインターネット環境

ある 10人

ない 4人



2. パソコンやスマホを持っている

持っている 12人

持っていない 2人



3. インターネットやメールなど活用している

活用している 12人

活用していない 2人



4. 会議等のオンラインに賛成 or 反対

賛成 7人 反対 2人

どちらとも 1人 無回答 2人

どちらとも言えない 1人



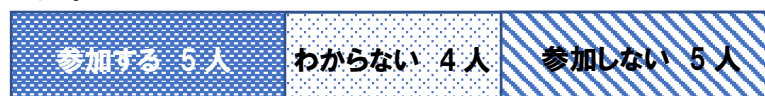
(反対理由：・現在体調が悪いため ・習熟するのに時間がかかる ・技術が未熟、不慣れのため、時間がかかる)

5. 会議等がオンラインで行なわれる時は

参加する 5人

わからない 4人

参加しない 5人 (参加しない理由：・難しいそうだ ・現在体調が悪いから ・苦手だから)



6. 会議等のオンラインについて 意見や要望など

- ・環境的に難しい状況の方がいると思うので考慮が必要かと。しかし今日的にはオンラインは有効的なアイテムに違いないですね。対面との併用等でできればいいかな、と思う。
- ・実際にオンライン会議をした(参加した)ことがないので教えて欲しい。
- ・オンラインもいいが、昔ながらの「集まって」コミュニケーションをとるのが楽しい。
- ・時代の流れとして不可避かもしれないが、直接会って食事をしてこそ三田会は楽しい。
- ・反対ではないが、この知識・経験が0なので参加は難しい。

- ・三田会は、塾員が触れ合う（集まり、話し、飲み食いし、交流する）ことにより学び、絆を深める、この人間交際が、慶応の精神・三田会の神髄。しかしコロナにより時代は変わった。対面が難しい時代に入った。オンラインは時代の流れではあるが、実際に行うには参加できない人への対応をよく考えることが必要。
- ・古いパソコンは持っているが、日常的にほぼ使用していないので、会議等への参加は不可能。
- ・オンライン会議等には参加したいが、操作に自信が持てないので対面でお願いしたい。
- ・7月10日、鹿児島通信三田会とのオンライン総会を見学した。会長がホスト役で6名参加、ZOOMで3回、2時間程度で、年3回位やりたい、ということであった。
- ・全国役員会や16000人卒業生突破記念実行委員会は、既に何回のオンライン会議をした。今秋の全国幹事会、記念式典、連合三田会大会は、現地とオンライン（ハイブリッド）の2元体制で行うことになっている。
- ・どんどん参加したい。しかし現時点は親の介護等があり難しい。
- ・アナログ人間、インターネットは得意でない。

7. 総括・感想

コロナ禍で、移動・集会・対面が規制され難しい状況下、塾員との交流や塾との繋がりを如何に持つか、そのために三田会活動をどうするか、その方法の一つが、デジタル技術 ZOOM を使用したオンライン会議であると思う。既に全国通信三田会を始め、各地域三田会でも行われている。今回のアンケート結果では、「賛成」が7名（約50%）だったが、実際に行う時は「参加したい」が（5名）、「参加しない」も（5名）、である。

機が熟していない感もあり、指摘されている課題もあるが、時代の流れ、当会でも前向きに検討したい。「反対」や「参加できない」会員は、初めてなので不安や戸惑いもあり、うまく繋がらないのでは？と心配もしていると思う。まずは参加して、体験する！ ZOOMの本は書店にも多く並んでいる。自分で勉強することも大事。また不参加者には、紙媒体等での情報共有することも必要である。

（ 迫田 ）



塾情報

- ・ 秋期全国幹事会、通教卒業生 16000 人突破記念式典、講演
10月15日(土) 13:00~17:00 三田キャンパス
集会とオンラインで(ハイブリッド) 要申し込み
- ・ 連合三田会大会
10月16日(日) 9:00~ 日吉キャンパス
オンライン(デジミタ) 参加もできる(要申し込み)
- ・ 広島慶応倶楽部総会、懇親会(予定)
11月7日(月) 18:00~ リーガロイヤルホテル広島
- ・ 広島慶友会会長交代(8月) 大滝由美子君(文)
オンライン例会が可能になった。今、県外の仲間が6人
(島根県・鳥取県・茨城県・神奈川県・ドイツ) いる。



編集後記

特集の近況、大門清君の「万歩運動 30 年記」を読んだ。「毎日 10,000 歩、30 年間続けた記録」との記事に、強靱な意志と努力に感動した。雨の日も風の日も、出来なかった日は 1 週間内にカバーするそう。つい理屈をつけ、怠けたくなるのが我々凡人。今ではそれが「楽しい習慣」になっているとのこと、散歩の効用を上げている。是非見習い実行したいものだ。

以前、この会報で紹介した会員の新田政丸君は、毎日の新記事をジャンル別にスクラップし、これを何十年間も続けているとのこと。このような素晴らしい会員がいることに誇りを感じる。

身近な先輩、同僚の生き方を見習いたいものである。他にはコロナ禍でこの夏をどう過ごしたことや今の思いなどを書いてもらった。(迫田)

慶應義塾大学 広島通信三田会報 みやじま 第 63 号

発行 広島通信三田会 会長 迫田 勲

編集 広島通信三田会 幹事(広報担当) 小林 節子

〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内1 4 4 8 番地

E-mail i-sakoda@h9.dion.ne.jp

発行 2022年 9月30日

会の HP <https://hiro-tu-mitakai.net>

